

令和元年度 共同募金報告



皆様から多くの募金をいただきました。温かいご支援ありがとうございました。

令和元年度共同募金寄付金総額 **20,078,815円**
(赤い羽根募金……14,149,481円 年末たすけあい募金……5,929,334円)

令和元年度に集まった募金は令和2年度に使われます。
赤い羽根募金のうち5,476,030円と、年末たすけあい募金5,929,334円全額
(総額11,405,364円)が旭区社協の事業費として使われます。

令和元年度、旭区社協では、共同募金配分金を次のような事業で活用しました。

- 地区社会福祉協議会活動費助成金(19地区) **453万円**
- 区内活動団体への助成金 **230万円**
(あさひふれあい助成金の一部等)
- あさひいき宣言(旭区社協だより)の発行ほか広報活動 **363万円**
- きらっとあさひ福祉大会・表彰式典 **44万円**
- 災害見舞金の交付 **18万円** など

財源:平成30年度募金

令和元年9月に発生した台風15号による
災害罹災世帯23件、火災6件に対し、見舞
金を交付しました。

区内で活動されているボランティア団体・障害当事者団体等に対し、活動資金を助成しました

あさひふれあい助成金を活用している団体をご紹介します。

「配食グループ虹」と「宅配ほほえみ」

高齢者や障害のある方のご自宅まで手作りのお弁当を届ける活動をして
います。川井地区で活動している「虹」は新型コロナウイルスの状況の中、
移動スーパーと連携して住民の方にお弁当配達を続けています。

また、「宅配ほほえみ」は旭中央地区で、毎月3回手作り夕食を届けていま
す。誰もがボランティアとして参加し、活動内容を工夫しながら地域の見守
りあいを進めています。



障害児余暇支援 「なかよし支援グループ」

白根地区で個別支援級に通う児
童生徒とその保護者に対して、地域
との交流を図ることを目的に余暇支
援活動をしています。保護者同士の
交流もでき、お互いの悩みや体験を
話し合える環境ができてきました。



共同募金は、地域福祉を進めるために活動資金をあらかじめ把握して計画的に募金を行っています。募金は任意ですが、
地域福祉を応援するためにご協力をお願いします。

善意銀行に寄付いただいた方々

(順不同・敬称略)

令和2年1月1日～5月31日

次の皆さまから善意銀行へご寄付いただきました。ありがとうございました。

(金品寄付) 荻窪 邦昭/金子 晶子/中田 昌幸/今宿西地域ケアプラザ
たかはし書道教室/医療法人社団 恵生会 上白根病院/匿名2件

(物品寄付) 神奈川県理容生活衛生同業組合旭支部/おべんとう ひよどり
NPO法人 ニッポンアクティブライフクラブ NALC横浜
NPO法人 横浜希望が丘コミュニティカフェ



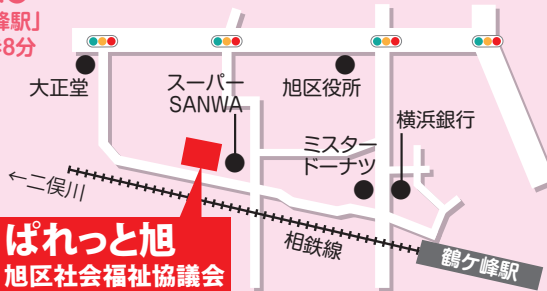
新型コロナウイルスの影響で
通常の活動ができないので、布
マスクを手作りし、ご寄付いた
だきました。布マスクは、旭区自
立支援協議会を通じて区内障害
者施設等に配分いたしました。

発行 社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-6-35
TEL:045-392-1123 FAX:045-392-0222
<http://www.palletasahi.jp/> 旭区社協

●アクセス●

相鉄線「鶴ヶ峰駅」
北口より徒歩8分



旭区社協だより No. 104 あさひ いきいき宣言

「この町が好き」と言えるまちづくり

令和2年8月1日発行



この広報紙は、「赤い羽根」共同募金の
配分金で発行しています。

<http://www.palletasahi.jp/>

旭区社協

新型コロナウイルスに負けない! ～真の地域共生社会を目指して～

地域共生社会を目指して

共に
支えられ
生きていく

横浜市旭区社会福祉協議会

新型コロナウイルスが猛威を振るい、当たり前の日常が変化し、その変化
に翻弄されています。その影響が続いている中で、我々が進めてきた
地域共生社会を目指す活動はどのように変わっていくのでしょうか。

今回は平成30年7月に旭公会堂で開催された講演会において「地域
共生社会の実現に向けて」のタイトルでご講演いただいた日本福祉大学
原田正樹先生に今後の共生社会のあり方についてご寄稿いただきました。



原田先生に寄稿いただいた「新型コロナウイルスとボランティア」については次ページをご覧ください。詳しくは中面へ

「新型コロナウイルスとボランティア」

日本福祉大学 副学長 原田 正樹
「広がりボランティアの輪」全国連絡会副会長



新型コロナウイルス感染症に世界中が翻弄されている。見えない恐怖と感染者が急増するという危機感のなか、今は感染防止を最優先で、あらゆる人たちが力をあわせている。一日も早く平穏な日常が戻ることを、皆さんと一緒に願うばかりである。そうしたなかで、ボランティアとしての視点から、世の中をスケッチしておかなければいけないと思った。本当にこれでよいのか、そんなことを忘れないために記述しておきたい。

インターネットのなかで感染した人を特定し、非難するメールが飛び交う。その人たちが所属する組織が世間に謝る光景は、何度となくテレビで放映される。最前線で必死に役割を果たしている医療や福祉の関係者が周りから差別され、排除される。病院に勤務する看護師の子どもがいじめられたり、福祉作業所に通所している利用者に「入院しろ」と罵声をかけられたり、感染した人が責任をとって会社を辞める、そんな事例が各地で起こっている。私たちはハンセン病者への反省を忘れてしまったのであろうか。感染者を「隔離」することに注視しすぎると、排除することが当然のことになってしまう。感染した人のこと、その家族のこと、関係者のことを思いやり、その人たちが安心して治療にあたることのできる社会にしたい。感染することにおびえるのは重篤な症状になることだけではなく、社会から排除されることに対してなのかもしれない。

自分で考える、判断することに疲れた私たちは、その責任を第三者に押しつけ、より強い強制と規制を自ら求め始める。「自粛では生ぬるい、もっと強い法的な強制力をもって縛るべきだ」。テレビで連日流される発言に左右され、それに従わなければならないという同調圧力に拍車がかかる。まさに個人の自由と社会のあり方が問われている。それは感染予防を軽視してよいということではない。いのちをまもるために、何ができるかを私たち一人ひとりが考えていかなければならない。ところが正解のわからない問いを考えることは、つらい。でも私たちは個人として考え続けなければならない。

どんな状況になろうと、人間の尊厳がウイルスに負けてはならない。いや本当はウイルスに負けるのではなく、個人の尊厳を蹂躪しようとする人や社会に負けてしまうのである。感染してしまった人のことを思いやり、最前線で支えている人々に感謝し、今、自分にできることを考える。こんな当たり前のことを、見失ってはいけない。今、大切にしなければならないのは、ボランティアが大切にしてきた世界観だと思う。あたりまえの日常を大切にすること、そのなかで、自分や自分の家族のことだけではなく、他者のことを思いやる。社会のことを想像してみる。そのときに何か自分に出来ることを、自分の意思でやってみる。

でも今は、ボランティアは活動を自粛し、何も出来ないことに打ちひしがれている。だがこの悶々としたなかでも自分に何ができるかを考え続けているはずだ。すぐに活動につながらなくても、私たちはボランティアの灯を消してはならない。その時が来たら、あれをしよう、これをしようと思いを巡らす。ボランティアの想像力は「希望」だ。

新型コロナウイルスの感染が落ち着いた後、社会はどう変わっていくだろう。これを機会により分断と排除が進んでしまうのか。それとも、本当の共生社会を創造することができるのか。その岐路に立っているのかもしれない。だからこそ、今、ボランティア（ボランティアの精神）を大事にしたい。

我々が目指してきた地域共生社会がまさに今、正念場にあります。これまで積み重ねた数々の取り組みの真価が問われています。新型コロナウイルスの影響によりこれまでの当たり前が変わらざるを得ないかもしれませんが、大切にしてきたことは変わらないはず。一人ひとりが地域の一員として考え、行動し、真の地域共生社会を目指していきましょう。

旭区社協インフォメーション

令和元年度 事業報告及び決算概要

第3期 旭区地域福祉保健計画の「推進の柱」に基づき取り組みました。



推進の柱
1

地域の福祉力アップ

「地域住民が主役となり地域課題に取り組むための基盤をつくる」ために、地域ケアプラザ・区役所等の関係機関・団体と連携し、地区社協や各種団体への情報提供や助成、活動場所の提供等の支援を行いました。

推進の柱
2

安心して自分らしい生活ができる地域づくり

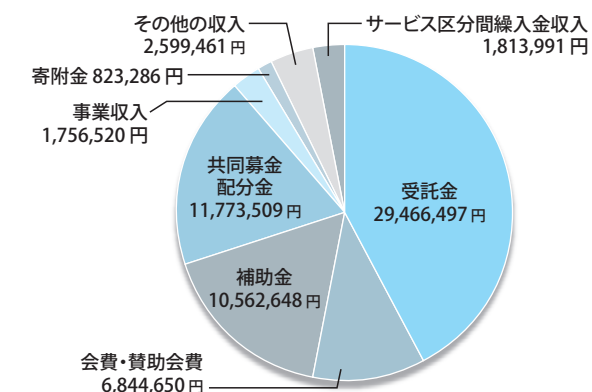
「支援を必要とする人が的確に支援につながる仕組みをつくる」ために、移動情報センターやあんしんセンターの運営等により、課題を抱える人たちの相談支援を行うとともに、各事業に限定されない総合窓口として対応しました。

推進の柱
3

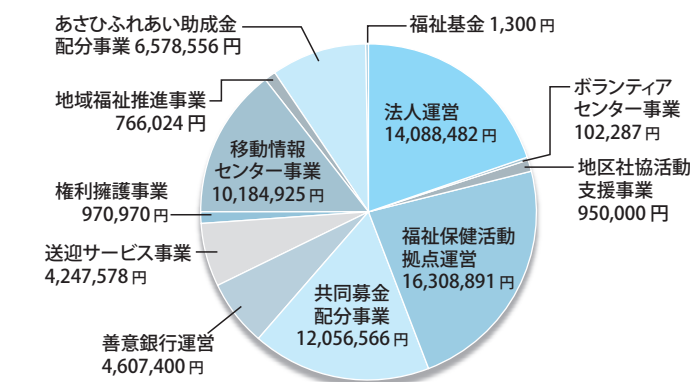
地域の取組で元気力アップ

「幅広い市民参加から地域福祉保健の取組が広がる仕掛けをつくる」ために、ボランティアセンターの運営や福祉教育（啓発）の推進、区役所との協働により地域人材の育成を目的とした新あさひみらい塾の開催等に取り組みました。

収入内訳 当期収入合計：65,640,562 円



支出内訳 当期支出合計：70,862,979 円



前期末支払資金残高：16,663,340 円 当期末支払資金残高：11,440,923 円

令和2年度 事業計画及び予算概要

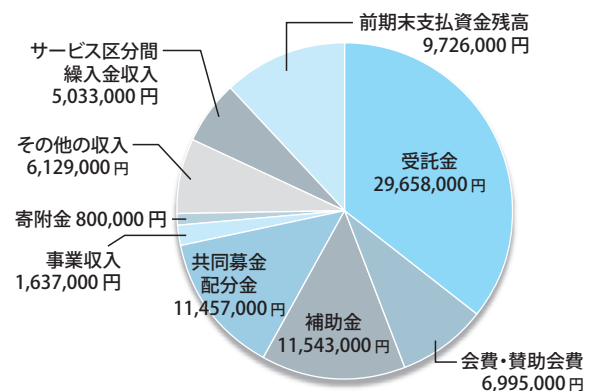


本会では社会的孤立や関係性の貧困などを背景とした様々な相談を「我が事」として「丸ごと」受け止められるよう取り組んでいます。

また、地域で潜在化しているこれらの課題に気づき、支えられる地域とするための仕組みづくり、地域力の強化を進めていきます。

- 課題を発見・共有し、解決に向けて自ら行動する、多様性を受け容れられる地域づくり
- 住民の力と公的な支援体制の協働による制度だけでは支援しきれないニーズへの対応
- 「断らない相談支援」を目指した相談機能の強化
- ネットワーク組織であることを活かした、多様な組織・団体の連携
- 会員である地区社協・地区民児協等の地域活動団体や福祉施設、企業等と連携した地域力の強化

収入内訳 当期収入合計：82,978,000 円



支出内訳 当期支出合計：77,553,000 円

